

精神疾患の病態理解と 認知行動療法

悪循環からの抜け道をとともに見いだす

2011年1月29日(土)・30日(日)

原田メンタルクリニック
東京認知行動療法研究所

講師：原田誠一先生



薬物療法だけでは改善しえない問題や状況にも積極的に取り組む考え方のひとつに、認知行動療法(CBT: Cognitive Behavior Therapy)があります。CBTは専門家だけが行う特殊な治療法としてだけではなく、現場のスタッフが普段の問題解決に使える大変便利なツールであると考えております。病者が陥っている悪循環の病態が理解できると、おのずと悪循環を断ち切るための自らの立ち位置が見えてくるはずです。CBTの第一人者である原田先生から、心理教育、CBT介入法について、豊富な事例紹介を通して具体的にわかりやすくお話していただける予定としています。



原田誠一先生…原田メンタルクリニック、東京認知行動療法研究所院長。認知行動療法の第一人者として多数の論文、学会でご活躍中。代表的な著書に「強迫性障害のすべてがわかる本」(講談社)、「精神療法の工夫と楽しみ」(金剛出版)、「うつ病治療 現場の工夫より」(神田橋條治らと共著 メディカルレビュー社)など。



29日
(土)

第一日：不安障害・気分障害編

17:30～20:30

■ 講義と質疑応答

■ 症例提示：阪本病院 精神科医 久保田亮先生
「自殺念慮」と「怒り発作」とが頻発する
30歳代男性に対する25回集中CBTの効果

30日
(日)

第二日：統合失調症・境界例編

9:00～12:00

■ 講義と質疑応答

■ 症例提示：原田誠一先生
「境界例の事例」

